

形大医総第5780号
令和6年1月19日

各関係機関の長 殿

山形大学大学院医学系研究科長
上野 義之
(公印省略)

山形大学大学院医学系研究科医学専攻病理診断学
講座担当助教候補者の推薦について(依頼)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび本研究科病理診断学講座では、下記のとおり教員を公募することとなりました。つきましては、貴職関係者にご周知いただくとともに、適任者がおられましたらご推薦賜りますようお願い申し上げます。

謹言

記

- 1 所 属 病理診断学講座
- 2 職種及び人員 助教 1人
- 3 採用予定年月日 令和6年9月1日
- 4 職務内容
病理診断学講座における病理診断・解剖、ならびに教育・研究
- 5 応募資格
(1) 病理診断の経験がある方(病理専門医資格を有している方が望ましい)
(2) 病理解剖執刀経験と剖検報告書作成の経験がある方
(3) 博士号取得は問わないが、原著論文を書く意欲のある方

6 待遇等

採用時にテニユア審査が行われ、可とされた場合は、採用時から直ちにテニユア取得となります(テニユアトラック制度※)。採用時審査で不可となった場合は、テニユアトラックとして任期は5年間となり、3年目もしくは5年目に学内規程に基づくテニユア審査が行われ、可とされた場合にはテニユアが付与されます。

※本学のテニユアトラック制度については、下記をご参照ください。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/recruitment/20201105/>



<https://www2.id.yamagata-u.ac.jp/recruit/>

(1) 給与

国立大学法人山形大学年俸制（Ⅱ）適用職員給与規程による年俸制
経験等を考慮し、基本年俸を決定します。

(2) 保険

文部科学省共済組合（健康保険・厚生年金）、雇用保険、労災保険

7 試用期間 6か月

8 提出書類

- (1) 履歴書（別紙様式1） PDFファイル1部
- (2) 業績目録（別紙様式2） Excelファイル1部
- (3) 病理解剖の執刀数の記載と剖検報告書のコピー 書式自由
（剖検に関する個人情報は黒塗りにするか、削除した形にしてください）

9 公募締切日 令和6年4月30日（火）必着

10 面接及びプレゼンテーション 日時はおってお知らせします。

11 書類提出先

下記まで提出書類電子ファイルをメール添付にてお送り下さい。

〒990-9585

山形市飯田西二丁目2-2

山形大学大学院医学系研究科医学専攻病理診断学講座

二口 充 宛

E-mail: futakuch@med.id.yamagata-u.ac.jp

12 問い合わせ先 書類提出先に同じ。

13 その他

- (1) 山形大学では、男女共同参画の推進とワークライフバランスの実現に取り組んでいます。保育支援制度が整っており、医学部には、保育所・病児保育室が設けられ、子育て支援が充実しています。また、ダイバーシティ研究環境実現のために、女性研究者の活躍を支援する制度（研究継続支援員制度や学会参加時の保育支援制度など）も整えています。詳細については、下記URLをご覧ください。

山形大学ダイバーシティ推進室：

<https://www.diversity.yamagata-u.ac.jp/>

- (2) 学生に対する性暴力等を原因とする懲戒処分歴がある場合は、その具体的な事由を応募の際に必ず申告してください。なお、当該事実が後日判明した場合は、経歴詐称による採用取消、懲戒解雇等の対象となる場合があります。

(様式1)

記載例

履 歴 書

(令和〇〇年〇〇月〇〇日現在)

ふりがな 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
氏 名： 〇 〇 〇 〇 〇 昭和42年(1967) 〇月〇〇日生(〇〇歳) 性別
(旧姓名：〇〇〇〇)

所属・職種： 〇〇大学〇〇学部〇〇学第二講座・准教授
〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇-〇〇
電 話：〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇(直通) FAX：〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
メール：〇〇〇〇@〇〇〇〇〇.〇〇.jp

現住所： 〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇-〇〇-〇〇〇号室 本籍：〇〇〇県
電話：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

学 歴： 昭和61年(1986) 3月 〇〇高等学校卒業
平成 4年(1992) 3月 〇〇大学医学部医学科卒業
平成〇〇年(〇〇〇〇) 4月 〇〇大学大学院医学研究科医学専攻入学
平成〇〇年(〇〇〇〇) 3月 同 上 修了

免許等： 平成 4年(1992) 4月16日 医師免許(第〇〇〇〇〇〇号)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 厚生省〇〇〇〇〇〇資格認定医(第〇〇〇〇〇号)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 日本〇〇学会認定〇〇医(第〇〇〇〇〇号)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 日本〇〇〇〇学会認定指導医(第〇〇〇〇〇号)
学 位： 平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 医学博士(〇〇大学)，または博士(医学)(〇〇大学)

職 歴： 平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 国立〇〇病院医員(研修医)(外科)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 同上 退職
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部助手(〇〇学第二講座)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇〇月〇〇日 同上 退職
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇県立〇〇病院(〇〇部)
平成 〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 同上 退職
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇〇月 〇日 米国〇〇〇〇〇〇大学研究員(〇〇学)
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月〇〇日 帰国
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部附属病院助教(〇〇部)
平成〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部講師(〇〇学第二講座)
令和〇〇年(〇〇〇〇) 〇月 〇日 〇〇大学医学部准教授(〇〇学第二講座)
現在に至る

所属学会等： 日本〇〇学会(評議員：平成〇年～現在)
日本〇〇〇学会
日本〇〇〇〇学会(評議員：平成〇年～現在)

社会貢献： 〇〇病院への応援診療(平成〇年～現在)
〇〇県〇〇〇審議会委員(平成〇年～令和元年)
〇〇〇高校における講演「〇〇〇〇〇(演題)」(令和〇年〇月〇日)
※特筆すべき活動のみを記載してください。

賞 罰： なし

氏 名:

[原著] ・ [症例報告] ・ [総説] ・ [国際学会のProceeding]

著者名	論文タイトル	ジャーナル名 (巻・頁・年)	著者区分	責任著者の有無	インパクトファクター	ランク
1 Yamagata T, Beniya H, Sagae M	Malignant Clinical features of anaplastic gliomas without IDH mutation	Neuro Oncol 17 136-144 2019	◎	●	9.0000	Q1
(oooooooooooooooooooooooooooo, ooooooooooooooooooooooooooooo, ooo.)						
2 Yamagata T, Beniya H, Sagae M, Turuoka S	Angiographic circulation time and cerebral blood flow during balloon test occlusion of the internal carotid artery	J Cereb Blood Flow Metab 34 136-43 2018	◎		5.4900	Q1
3 Yamagata T, Beniya H, Yonezawa E, Sagae M	Risk assessment for venous thromboembolism in patients with neuroepithelial tumors : pretreatment score to identify high risk patients	Neurol Med Chir(Tokyo) 53 455-466 2017	◎			
4 Beniya H, Yonezawa E, Sagae M, Yamagata T	The role of surgery for anaplastic gliomas with IDH mutation	Neuro Oncol 15 iii223 2017		●	9.0000	Q1
5 山形太郎, 紅屋花子, 寒河江光政	パルスジェットメスを用いた蝶形骨緑髄膜腫摘出手術-血管温存能を活用して	脳神経外科 42 1019-1025 2018				
6 上山洋一, 米沢恵美子, 山形太郎	脳腫瘍の最新治療法	Convection-enhanced delivery Clinical Neuroscience 31 1186-1187 2017				

[著書]

執筆者名	執筆タイトル	著書名 (頁・年)	編者名	出版社
1 Yamagata T, Beniya H, Sagae M, Turuoka S	The role of IDH1 and IDH2 mutations in malignant gliomas. In : Hayat MA, editor	Tumors of the central nervous system, vol.2 2017		Springer
2 山形太郎	緊急対応を要する脳腫瘍 神経救急診療の進め方	脳神経外科 診療プラ pp167 2014 クティス4		文光堂

[学会発表]

発表者名	発表タイトル	発表学会名 (開催地・年)
1 Yamagata T, Higashine O, Sagae M	The role of surgery for anaplastic gliomas with IDH gene mutation. (Poster)	The 4th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-Oncology San Francisco USA. 2017
2 山形太郎, 寒河江光政	神経膠腫発生に関与する遺伝子異常 (プレナリーセッション)	第32回脳神経外科コンgres 横浜 2016

記入要領 (様式2)

- 原著, 症例報告, 総説, 国際学会のProceeding, 著書及び学会発表の順に, 各項目に分けて記載してください。
なお, 印刷中 (in Press) の論文については受理証明書若しくはDOIを添付・併記してください。
- 項目ごと英文を先, 和文を後とし, 年代の新しいものから順に記載してください。
- 具体的記載について
 - 原著, 症例報告, 総説, 著書及び国際学会のProceedingについては, 原則として記載例にならってください。
なお, 次の点にも御注意ください。
 - 雑誌の略誌名は, Index Medicus 及び医学中央雑誌に掲載されているものに準じる。
 - 全著者名を記入し, 本人名には下線を付する。
 - 主要論文 (20編以内) に○印を付け, 日本語で数行以内の概要を記入してください。
 - 原著 (英文), 症例報告 (英文), 総説 (英文) のうち, 筆頭著者の論文には◎印を, 第2著者の論文には△を, 責任著者の論文には●印を付けてください。(筆頭著者かつ責任著者の場合は◎●, 第2著者かつ責任著者の場合は△●)
 - また, 著者名が2番目でも, 共同の筆頭著者である場合も◎を付けてください。
 - 2022年におけるインパクトファクターのランクがQ1, Q2であるジャーナルの場合は, Q1又はQ2を併せて付してください。
 - 学会発表については, 全国規模の国内学会 (地方会・支部会除く) での特別講演, 教育講演, シンポジウム等, 及び国際学会で筆頭者として発表したものに限ります。